

樹種名	クマノミズキ	
科 目	ミズキ科	
学 名	<i>Swida macrophylla</i>	
分 布	本州、四国、九州に分布し、山地に自生する。アジアでは、朝鮮、台湾、中国、ヒマラヤ、アフガニスタンに分布する。	
樹木特性	陽樹であり、平地から山地まで生育し、土壌の深いやや湿った場所を好む。暗い環境では成長はしないことから耐陰性は低い。萌芽更新を行う雑木林では株立ち状となり、萌芽力は強い。生育環境が良好な場合には、寿命は最大樹齢が 100 年以上と推定され、埋土種子は休眠するが、寿命は短い。	
用 途	殆ど利用されない。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	31 本 / 0.01ha (3,000 本 / ha)	
特 徴	【樹形】 落葉高木であり、樹高は 8~12m となる。若枝はほぼ無毛で 4~6 の縦稜がある。 クマノミズキの葉はすっきりとして美しいのが特徴で、長さ 1~3cm の葉柄をもって枝に対生し、形は卵形または楕円形で、先端は長い鋭尖頭で基部はくさび形、両面無毛で、縁は全縁。葉身の長さ 6-16cm、幅 3-7cm で、裏面はやや粉白色になる。葉脈は 6 対前後であり、紅葉は緑の色が薄れ、淡い黄色で落葉するものが多く、紅色を帯びるものが混ざる。花は 5~7 月の中旬頃まで花を見ることができ、花は薄いクリーム色で、花弁は 4 枚。おしべも 4 本で、中心部には 1 本の花柱があり、基部には花盤があって、蜜を分泌する。 果実は、直径約 5 mm ほどであり、緑色のものと黒色に熟したものが混ざる。熟す期間にかなりの幅があり、長期間にわたって持続的に果実を散布する。	  
試験地での様子	ミズキのポット苗に混入し入荷したポット苗を植栽し、31 本が現存している。	
被 害	特になし	

【現存率】

植栽時にはミズキとして植栽したため、植栽時の本数は把握していない。

平成 26 年に毎木調査をした結果、31 本が現存しており、現存率は算定していない。

【根元・胸高直径】

植栽時にはミズキとして植栽したため、植栽時からの根元・胸高直径はミズキとの混合値である。

平成 26 年に毎木調査をした結果、平均胸高直径は 12.53 cm であり、順調に成長している。

【樹 高】

植栽時にはミズキとして植栽したため、植栽時からの樹高はミズキとの混合値である。

平成 26 年に毎木調査をした結果、樹高は 10.20m であり、順調に成長している。

《プチ情報》

和名は、三重県熊野に産するミズキの意味である。果実の先端には、萼筒の跡であろうか、凸部が残る点はミズキとの違いである。

クマノミズキの材質は柔らかく、カミキリムシ類などの食害を受けやすい。なお、クマノミズキとミズキとの区別方法は次のとおりである。

- ① 花 : クマノミズキはミズキより花期は 1 月ほど遅く、葉は枝に対生する。(ミズキは互生)
- ② 葉 : クマノミズキの葉は「対生」であること、葉柄が葉身の半分程度で短い。一方、ミズキの葉は「互生」であり、葉が大きいことなどにより区別できる。
- ③ 枝 : クマノミズキは棚状の枝とならず、ミズキは棚状の枝張りとなる。
- ④ 茎 : クマノミズキの若い茎には縦筋があり、ミズキはの若い茎には、丸い断面を持つ茎がある。
- ⑤ 実 : クマノミズキは果実の先端には凸部があり、ミズキは無い。
- ⑥ 耐寒適応性 : ミズキの方が耐寒性があり、北海道まで自生する。

